

「税金の使い道」

須賀川市立第二中学校 三年 池島 怜奈

「今日からプラスチック製品はこの袋に入れてね。」

ある日、母にそう言われた。

現在、私の住む街ではプラスチック製容器包装に加え、プラスチック製品の分別収集の実施が始まった。私は正直面倒な気持ちになった。これまでも、可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源ゴミなど、沢山のゴミを分別してきたのにも関わらず、まだ分別しなければならないのか。しかし、私は母に言われた通り、ゴミの分別をした。これまでは、可燃ゴミとして収集していた飲料ボトルや歯ブラシなども新たに対象となり、少し手間が増えた。なぜここまで分別しなければいけないのか。今まで可燃ゴミとして処理されていたならば、それで良いのではないか。私は疑問に思い、調べてみた。

日本では、年間約四千万トン超のゴミが排出され、処理にかかる事業経費は約二兆円超だそうだ。ゴミの収集が税金によって賄われていることを小学生の時、租税教室で学習したのを思い出した。仮に、税金がなければゴミの回収はされず、街はゴミで汚れてしまうと思ったのも記憶に新しい。しかし、税金があるからといっていくらでもゴミを出していいわけではないのだ。ゴミが増えるとその分税金が使われ、更にゴミの燃焼で二酸化炭素も排出される。二酸化炭素が排出されると、地球温暖化にもつながり、悪循環だ。そうならない為にゴミの分別は必要なのである。分別により資源が増えることで、燃焼や埋め立てにかかる税金は抑えられ、二酸化炭素の排出も少なくなる。正に一石二鳥なのだ。

日本は今、急速に温暖化が進み、猛暑日が続くことも珍しくない。その原因として、二酸化炭素を始めとした温室効果ガスが大量に排出されていることが挙げられる。そこで、二酸化炭素の排出量に対して課税される地球温暖化対策税というものがあることを知った。この税の導入により、二酸化炭素削減の効果が期待できる。また、税収の用途

は森林の整備・保全、自然エネルギー等普及促進、住宅・ビルの省エネ化などに用いられている。つまり、地球環境保全のために税金が使われているのだ。

税を負担に思う人もいるかもしれないが、税金の活用法を深く知ると、私達は日々税の恩恵を受けていることに改めて気づかされる。しかし、税金は限られている。税金を無駄遣いせず、大切に使うため、私達国民一人一人が考えて行動しなければならない。その一つとしてゴミの分別は必要なのだ。ゴミの燃焼を減らし、使う税金が減れば、教育や医療など他にもっと必要としていることにその税金を充てることが出来る。

税金があるからこそ成り立つ私達の暮らし。当たり前のように感じるかもしれないが、そのことに感謝し、よりよい税金の使い道を考えていきたい。